

順位表 5/26現在
基本 14試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

注：＊印は消化試合が数字分少ない

1	大宮	33p	+17	26	9	A●
2	琉球	23p	+3	20	17	
3	沼津	22p	+8	21	13	
4	相模原	22p	+5	13	8	A△
5	金沢	22p	+3	27	24	A△
6	FC大阪	21p	+6	15	9	A△
7	富山	21p	+2	14	12	
8	福島	20p	+6	22	16	HO
9	長野	20p	+1	23	22	A●
10	松本	20p	-1	19	20	AO
11	今治	20p	-2	16	18	AO
12	岐阜	19p	+4	20	16	---
13	YS横浜	17p	-3	11	14	
14	鳥取	17p	-7	14	21	
15	北九州	15p	-1	10	11	H●
16	八戸	15p	-2	12	14	
17	奈良	15p	-3	18	21	A●
18	讃岐	11p	-6	12	18	HO
19	宮崎	10p	-8	13	21	H●
20	岩手	9p	-22	10	32	HO

次回HomeGame

第16節 vs.アスルクラロ沼津

6/8(土) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：月曜日

今日もここから
串かつで一杯

煮込み珍道中
串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です

<定休日：日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10分

★

アミカ

ドミー
ン

JR

岐阜駅

通算対戦成績	全 6 試合 (J3: 6 試合) 岐阜 6 勝 / 琉球 0 勝 / 0 分け Jリーグ岐阜ホーム戦：3 勝 0 分 0 敗			
直近の対戦結果	2023/11/25 琉球 0-1 岐阜 得点者：窪田稜 J3-37節@タピスタ			
ここ 3 試合の 公式戦の 結果	岐阜	2024/05/25 天杯1回戦@メドウ 岐阜 1-0 沼津 2024/05/18 J3-14節@ロートF 奈良 2-1 岐阜 2024/05/11 天杯県予選@メドウ 岐阜 5-0 FC BOMBONERA	琉球	2024/05/22 ル杯3回戦@タピスタ 琉球 0-1 C大阪 2024/05/18 J3-14節@タピスタ 琉球 2-1 宮崎 2024/05/12 天杯県予選@南城陸 琉球 0-1 沖縄SV

● J3 リーグ 2024 年シーズン、開幕から好調と思われたが、4 月に入って 5 試合未勝利と失速してしまった FC 岐阜。5/6 (祝) 第 13 節・ホーム北九州戦は、前半から岐阜がボールを支配するがシュートを撃つことができない。すると前半 A T に PK を与えてしまい、先制点を許す。後半も攻撃の形が作れずに時間が過ぎ、そのまま 0-1 で敗戦した。翌週 5/11 (土) の天皇杯岐阜県代表決定戦・F C. Bombonera 戦は、大きくメンバーを入れ替えて臨んだ岐阜。試合の流れを掴みきれず苦しんだが、最後はカテゴリーの違いを見せつけて 5-0 で勝利し、岐阜県代表の座を掴んだ。しかしリーグ戦に戻った 5/18 (土) 第 14 節・アウェイ奈良戦は、前半 A T に #17 田口裕也のゴールで先制して折り返したものの、後半に 2 点を奪われて 1-2 の逆転負け。7 試合 (4 月・5 月) 未勝利、リーグ戦 3 連敗を喫してしまった。その翌週は 5/25 (土) 天皇杯 1 回戦・沼津戦。前半から沼津に押し込まれた岐阜だったが耐えて、後半 19 分に奪った #11 藤岡 浩介の虎の子の 1 点を守り切って、1-0 で勝利。2 回戦に駒を進めることができた。

さて、リーグ戦 2 試合の結果、FC 岐阜の順位は 5 位から 12 位に急降下。ついに“ボトムハーフ”にまで順位を下げてしまった。ただし、まだリーグ戦を諦める段階ではない。首位・大宮が、2 位 (= J 2 自動昇格枠)・琉球との勝点差を 10 と引き離しているが、その琉球と岐阜との勝点差は 4。琉球との勝点差 6 を範囲とすれば、14 位・鳥取までが入ってくるという大混戦ぶりだ。勝利を積み重ねれば、再び上位への道は開けてくるはずだ。そして今シーズンの前半戦は、今節を入れて残り 4 試合。6 月から再び勝利そして勝点 3 を積み上げる局面に持ってゆき、そして 7 月からの後半戦に入っていくことが理想的だ。そのためにも、まずはこの試合で勝利を掴み取ることが何よりも重要だ。

さて、今節の対戦相手は FC 琉球 OKINAWA (呼称：FC 琉球) だ。昨季は 1 年での J 2 復帰を目指すシーズンだったが、序盤からチームは低迷。2 度の監督交代を経たものの、最終順位は 17 位。今季は、2016 年から 2018 年に琉球を指揮して 2018 年の J 3 優勝を達成し、昨季 9 月から再び監督に就任した、金鍾成氏がシーズン開幕から指揮を執る。そして多くの選手を入れ替えて望む 2024 シーズン、序盤はやや出遅れたものの、徐々に調子を上げてゆき、現在は 6 勝 5 分 3 敗・20 得点 17 失点で 2 位につけている。つまり今節は上位チームとの対戦となるが、岐阜との勝点差が 4 のチーム、油断することなく全力を出し切ることができれば、勝てない相手ではないはずだ。また今季の琉球は、アウェイで 2 勝 3 分 3 敗・7 得点 9 失点と力が発揮できていない。我々がホームの利を活かして戦うことで、勝利の可能性は広がるはずだ。琉球と岐阜との対戦成績は、J F L 時代 (2007 年) に 2 勝 2 得点、J 2 時代 (2019 年) も 2 勝 4 得点 2 失点。J 3 での昨季も 2 勝 4 得点 1 失点と、現在のところ琉球に 6 戦全勝中だ。しかし、これを過信としてはならないのも当然のことだ。

琉球で最も注意すべき選手は、やはり現在 9 得点で J 3 得点ランク首位の # 7 白井陽斗だろう。そして、琉球在籍 13 年目の # 10 富所悠は、琉球の司令塔であり 5 得点を挙げている攻撃の中心選手で、彼を自由にさせないことが重要だ。また、ベテラン # 4 藤春廣輝のクロスや # 22 上原牧人の突破にも注意が必要だ。一方の岐阜では、現在 7 得点で得点ランク 4 位タイの # 11 藤岡浩介と # 17 田口裕也が、ゴールを量産する姿を見せて欲しいものだ。また、かつて岐阜に在籍した # 31 パク・ソンス (2020 年在籍) はベンチ入りの可能性があるが、# 16 福村貴幸 (2017 ~ 2018 年在籍) は負傷中だ。

FC 岐阜は先週、天皇杯 1 回戦で沼津に勝利したものの、リーグ戦では 7 戦未勝利・3 連敗中という厳しい状況にあることを再認識しなくてはならないだろう。その一方で、その勝利で見たものも必ずあるはずだ。それを今節のリーグ戦にしっかりと活かして、今後の躍進とするためにも、このホームスタジアムに僕らの拍手と声援を響かせ、タオマフやゲーフラなどで緑に染めよう。叱咤激励しながら、最後まで前向きに戦う選手たちの背中を押し続けよう。そして今節こそは、試合終了の後に選手たちと勝利の歓喜を分かち合い、“HYPER CHANT” を、このホーム・長良川に響かせよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第13節】岐阜 0-1 北九州

●間違いなく今年自分が見た中ではワーストの内容。ドキドキもワクワクもしない90分+αだった。積極的なプレーは影を潜め、持っているボールを失わない事が重要なことになっている感じすらあった。

PKを与えたあのシーン、絶対に点を与えてはいけない時間帯にあのプレー。スライディングする必要があったか？スライディングしないと止められなかったか？時間帯考えてプレーできなかったのか？若い選手ならともかく（いや良くはないが）、チームを引っ張る立場のベテラン選手がである。猛省してくれ、いやしてくれなきゃ困る。

いろいろ変化が必要となってきた時期。戦い方もアップデートしていかなくては、そうでなければまた例年と同じような末路を辿ることであろう。

次の週末は天皇杯県代表決定戦。出場機会の少ない選手、恵まれない選手にも出場のチャンスはあるはず。しっかりアピールして、今までのレギュラー陣に取って代わるくらいの活躍を見せてほしい。チーム内で競争原理が生まれることで、全体のレベルアップに繋がっていく。

大宮が一步抜け出した現況、2位以下はかなりのダンゴ状態。ひとつの勝ち負けで順位に大きな変動が生じてくる。つまり一戦一戦がより重要になってくる。ここが正念場、しっかり踏ん張っていききたい。（岐阜の誇り）

●アウェイ戦で長野に逆転負けした、イヤな流れを払拭したいホーム戦。んで、流れを変えるためにはスタメンを一新して……うん、負傷交替したGKは当然に変わったしDF4人のうち2人は変えたけど、前目の6人は変化なし……それで良いのかしら（溜息）。そして、そのイヤな予感が的中してしまう。とにかく、ボールを奪ってから攻撃への切り替えが遅いというか、自分たちの陣形が整うまで、攻撃を仕掛けようとしな。それは、陣形を整える前に仕掛けてカウンターを浴びて失点してしまうのを、「極度に」恐れているように僕には見えた。だけど、その間に北九州の選手たちは戻って守備を固めてしまう。そうやって固まった守備ブロックを簡単に崩せる、針の穴を通すようなパスワークが岐阜の選手たちにできるのか？という、正直僕には疑問しかない。逆に言えば、そういうパスワークが無いからカウンターを浴びてしまうという側面もありますが（苦笑）。今季の調子の良かった試合では、相手の守備が整う前に全員が動いて切り替えて攻撃を仕掛けていたと思うんだけど、その運動量が欠けているようにも感じる。やっぱり、もう“岐阜の猛暑”が影響してるのかなあ……（溜息）。相手の守備ブロックが揃った時点で攻撃を、しかも縦にではなく左右にボールを振って前進させるものだから、なんだか“ラ式”の蹴球を見ているようでした（溜息）。それで守備ブロックを崩してゴールすると3点とか入るんなら良いんですが（苦笑）。とはいえ、北九州も守備を重視しているからそれほど脅威にはならない……と思ってたら、前半ATにPK献上（溜息）。あの時間帯に、あのエリアで、あんなプレーしたら、そりゃPKですよね（怒）。んで、後半にトップギアに入れて反撃するのを期待してたんですが、ほとんど変わらず。なんか北九州にいなされながらジリジリして時間だけが過ぎてゆき、そのままタイムアップ。スタッツでは、岐阜のシュートは前後半3本ずつの6本だとか。ホームの試合で下位のチームに前半で先制点を奪われて、それで後半にはシュート3本しか撃てずに0-1で負けるって、そりゃ僕でも『つまらん試合』って思うわけですよ。もちろんJリーグは試合ですから、勝ち負けがあるのは仕方ないとしても、“プロの興業”としてホーム戦でこんな試合をしてはいけない。勝ち負け以前の問題だと思う。チーム全体で猛省してもらわないといけないし、そんなメンタリティでは、ここから上は望めない。（ささたく）

●連休最終日。翌日から仕事やら学校やらで忙しい日々が始まるってえのに、なんで、ウチだけナイト・ゲームなんだよと。遠征組の北Qサポさんのコトも考えてあげなさいよ……とドブつきつつも、そうは言っても、北Qさんには申し訳ないが、コチラとしては、前節の手痛い敗戦の憂さを晴らすような内容と結果で連休明けを迎えたいワケだったんだけど……。待っていたのは最悪の結末。厳しい状況が続いていたアウェイ・サポさんに最大のおもてなしをしてしまうという大盤振る舞い。連休最終日、しかも、雨のナイトゲームである試合を見せられてはね。文字通り、晴れるコトなく降り続く連休明けの一日を『どブルーな気分』で過ごした方も多からう。特に現地組の心境たるや。察して余りある。諸事情でDAZN観戦だった自分は、まだマシだったんだろうなあ……。

いや、まあ、重い展開になるのはいいんだ。数は少ないけど、決定機もあった。そういうのを決めてくれれば、勝利も見える。「勝てば良からう。」なのは、ある意味真理。

決勝点をプレゼントした場面。ペナルティ・エリア外から進入してきたボールホルダーにエリア内からスライディングかましたら、そりゃ、「ラッキー！」とばかりに転ぶわさ。で、よっぽど、あからさまじゃない限り、主審としては笛を吹かざるを得んよね？いかにも軽率に過ぎたよ>キャプテン。

PKを与えたプレーは噴飯モノだが、ソレが敗因でないのは明白。北九州が特によかったワケじゃないのに、この内容なのはアタマが痛い。ただ、敗戦の中にも学びはある。1-0で逃げ切りを図ろうとするプレー。北九州のその徹底ぶり。前節残り8分で追いつかれ、拳句に勝ち越された某クラブにとってはずいぶん勉強になったのではなからうか。天皇杯明けのリーグ戦を期待したい。

あと、リリースがあった件。生半可なケガじゃないとは思っていたけど、かなり辛い。けど、一番辛いのは本人だよ。とにかく、焦らず、しっかりと治してほしい。待ってるよ、モグシュー。（ぐん）

●最近流行りの、いわゆる『異世界モノ』にありそうなシーンを想像してほしい。主人公とヒロインが深い森の中を歩いている。辺りはどんどん暗くなっていくし、遠くからいかにも危険な雰囲気の内息も聞こえてくる。進む先に灯りらしきものは一向に見えてこない。不安に耐えられなくなったヒロインは主人公にこんな質問をするのだ。「ねえユウサク、ホントにこの道であってるの？」

宮崎戦のだらしない敗戦については、「連戦続きで調子を落としているのだろう」と思った。でも、金沢戦、長野戦の2つのアウェイ戦、そしてホーム北九州戦を観て、それは違うんじゃないか、と考え始めた。北九州には失礼な形容になるかもしれないけど、金沢や長野と比べたら脅威はかなり少なかった。中2日で岐阜遠征という環境もあって、前半終了近くでもう脚が止まるような有様だった。そんな北九州を相手に、岐阜は「後ろでパスサッカー縛り」「外からクロス縛り」の試合をして、J3下位のチームをさらに下回るサッカーを『してしまった』……のではない。さらに下回るサッカーを『した』。北九州が岐阜にそうさせたのではないからだ。

おっかしいなあ。シーズン開幕当初はもっと走っていたよね。先日、沖縄に行く用事があって、那覇にある著名なサッカー・パブでマスターと話をしたのだけど、彼は「今年の岐阜はいいね、よく走る。開幕戦でわかったよ」と外交辞令抜きで誉めてくれた。あれは別の世界線の岐阜の話だったのだろうか。おそらくだけど、年齢層も高いし、岐阜の選手は疲れているのだろう。「もう走るのイヤだよ」「パスで攻めよう？『ボールは汗をかかない』って言うしさ」「そうだよ、そうしょ？」。一方、対戦相手はミーティングで「岐阜はパスでしか崩そうとしてこない。釣られずにブロックを保て。中でフリーに動いて守備網を乱そうとするヤツもいないから、脅威になるパスはそうは出てこない。トラップもヘタだからすぐに奪える、奪ったらカウンターだ。もし失敗しても、岐阜だって走らさ

れるんだから、さらに動けなくなってパスに頼る。これを基本に、あとは出たトコ勝負ってとこで、どうだ」なんて話をしているのだろう（想像）。

結果、北九州戦は『クズ』だった。『クズのような試合』ではない。『クズ』だ。それは、SNSでの感想が「弱い」ではなく「つまらない」が大勢だったことからわかる。「弱い」は実力不足だが、「弱い」サッカーでもお客にアピール出来るものはある。ひたむきに、一所懸命にボールを追う。相手に喰らいつく。でも「つまらない」サッカーは興行（エンターテイメント）として失格だ。もう、そこにカネを出そうという意志は生まれてこないだろう。シーチケ・ホルダーは既にカネを払っているから無関係だけど、そうでない一般のお客が、この試合を観て、また来るかといったら、来ないだろう。試合後、上野監督は「次のゲームでどれだけ自分たちのやろうとしていることを見せられるか」などとわけのわからない供述をしており（比喩）、少々真剣に眩暈がした。もうシーズンの3分の1が終わっているって、わかっているのかな。わかっている可能性はある。代表チームにとって、目標はW杯やアジアカップ、その予選であり、その他の試合は「目標の試合」に向けてどう消費しても大きな問題はない。でも、プロ・クラブにとってリーグ戦は『日銭を稼ぐ手段』だ。上野監督にはその発想がないか、薄いように思えてしまう。いま必要なのは、「勇気を持って戦わなくても、ボールを動かせば勝てる」という、現時点では出来もしない、そしていつ出来るようになるのかもわからない「自分たちのやろうとしている」サッカーの追求ではなく、2010年W杯南アフリカ大会を前に選手ミーティングで闘莉王が放ったとされる至言「オレたちへタクソなんだから、泥臭くやろう」という、『日銭を稼ぐ試合』に対する冷静なアプローチと熱いパッションじゃないのか。繰り返す、リーグ戦は練習試合ではない。（吉田鎊造）

【天皇杯県予選】 岐阜 5-0 Bombonera

●ホーム戦で酷い負け方をした翌週。それが天皇杯の県代表決定戦で良かったと、心から思いました（苦笑）。そして1年ぶりのメドウ。数年前に電光掲示板になり、今年はいつの間にか散水設備が！（前からありましたっけ？）芝の状態も良くて、「あー、メドウでリーグ戦を（再び）やれないかなあ……」と思うのは、古くからの岐阜サポなら誰もが思うことではないでしょうか（笑）。さてスタメンを大幅に入れ替えたとはいえ、FC Bombonera（以下、「ボンボ」）は県1部リーグ。つまり岐阜とはカテゴリーが4つ違う。ならば岐阜が圧倒……しない（できない）のが、サッカーそして天皇杯の醍醐味と言えはそれまでなんですが（苦笑&溜息）。ボンボはFC岐阜が相手なので、「絶対に勝ってやる」という気持ちを全開にして向かってくるのに対して、たぶん、岐阜はこのメンバーで試合を経験していないし、受け身になってしまっていたと思う。前半早々に#26 羽田一平がゴール前でのこぼれ球を押し込んで先制したけれど、その後はカテ4下のボンボ相手に攻めあぐねてしまう。リーグ戦に出ている選手もだけど、この試合に出ている選手も、“最初の選択肢がパス”の選手が多いように感じた。だから、相手ゴール前で自分のところにボールがこぼれてきてもシュートを撃たずにパスを選択してしまうのだと僕は思う。それって、大木さんが監督の時から変わってなくて、ポゼッション重視だと自然とそうなるのかしら……とか思いながら見てました。一方のボンボは、よく統制されたサッカーをしていたし、岐阜のゴール前に時折カウンターで侵入してシュートも撃てていた。特筆すべきは#15番のDF選手。とても大きな声で味方をずっと鼓舞し続けていた姿は、ウチの選手たちにも見習わせたい（苦笑）。まあ最後はカテ4の差を見せつけて(?) 5-0で勝利した岐阜。だけど、この試合に出た選手たちがもっと活躍してくれない

と、今後のリーグ戦はさらに不安になる気がします。それと、ボンボは過去に色々とかたごたしたらしいけれど、普通に良いチームだと思いました。（ささたく）

●ボンボネーラは県1部所属。東海2部所属の長良クラブに勝ち、昨年の天皇杯県予選準優勝の聖徳大（難波宏明監督）に勝っての県決勝進出。FC岐阜とはカテゴリーが4つ違う。でも、試合全体の印象からすると（カテゴリーは）2つくらいしか違っていなかったという気がする。とにかくボンボネーラの選手に「いい意味での」アドレナリンが出まくってた感じでフルファイトしてきたし、決定機だってあった。このサッカーを続けられるなら、県1部を制して、東海社会人も勝ち上がって東海2部に戻ることも出来そう。期待してます。一方のFC岐阜。リーグ戦組はお休みが多く、リザーブ勢がどれだけ存在感を出せるか？という感じで観ていたけど、リーグ戦勢と「やろうとしていること」が変わらなくて、『チーム戦術の一体感』としてはよかった……いやいや、全然良くない。庄司に青木といったベテランがボランチを張ってるわけでもないのに、相変わらず「出す人」「もらう人」の分業体制がしっかり。ああ、上野監督はこういうサッカーがやりたいんだなあ……と、ひしひしと伝わって来た。いずれ完成したら面白いサッカーになるから、完成するまではクソつまらない試合もするけど待ってね、待てるよね、サポは移籍出来ないんだもんね、そうでしょ？と語りかけてくる……みたいな。5-0で終わったのは、あくまで4カテ（内容的には2カテ）分の「実力差」だけ。唯一の、ホントに唯一の評価点は、最後のPKを途中出場のユーヤが蹴らなかったこと、くらいかしら。（吉田鎊造）

【第14節】奈良 2-1 岐阜

●リーグ戦3連敗、どんどん負のスパイラルに陥っているような。ミスを恐れて、どんどん無難なプレーに終始しているように感じる。前半ATに先制した時はこれはいい流れとは思っただけれどもね。なんだかボールを保持してる時間ばかり長くて、綺麗に崩してこれなら決められる形って所までいかないとシュートを打たないように見える。逆に奈良の2得点は思い切りの良さから生まれたもの。もっとひたむきに、もっと思い切りよく。日頃の練習でもっと悩んでもっと話し合っって細かい部分を煮詰めて微調整して。まだまだ先は長い、諦めてなんてられないよ。（岐阜の誇り）●天皇杯県代表決定戦を挟んだので、約2週間ぶりのJリーグ。昨季は衝撃的な後半ATでの敗戦を喫したロートF。今季こそは……だけど、5月なのに7月並みの気温で、再びイヤな予感しかしない（苦笑）。さて#11 藤岡浩介がピッチに戻ってきて、これで攻撃が活性化……しないんですねこれが（溜息）。中盤、特にボランチ2人の運動量が不足しているようにしか見えない。僕が少し気になってる、ウォーミングアップの内容でして。なんか、他チームと比べて、かなり激しいアップをしてるように見えるんだけど、（まさかとは思いますが）それで最初からバテてない？と思えるような動きに見えてしまう。そのせいか、相手にドリブルで中央突破を仕掛けられると、ズルズルと中盤が下がってしまって、DFラインと一体化してしまい、岐阜のゴール前での攻防……というような図式。攻撃への仕掛けは北九州戦よりはすこし良くなっているように見えるけれど、やっぱり相手の帰陣を許している。これでは厳しいなあ……と思っていたら、前半ATに、わずかな縦へのタッチで相手DFの裏に出たボールに#17 田口裕也が抜け出して、しっかりと右足を振り抜いて先制点、そして前半終了。望外の展開、そして「#17 田口、昨季の借りを返せたかな？」と思ったのは僕だけではないはずだ（苦笑）。だけど、楽しかったのは前半まで（溜息）。後半は再び圧力を強めた奈良に対して守る時間帯が増える。そして、奈良の交代が的中して、（幸運も味方したように思うけれど）交替選

手によって同点に追いつかれる。そこで、岐阜は#11 藤岡と#17 田口を下げてしまうんだけど、これが僕には疑問だった。もちろん2人とも前線でボールを追って疲労していたけれど、その2人が走っていたから、攻撃も守備も機能していたように見えていたのです。交替で投入された選手は“重戦車”タイプ、カウンターを仕掛けてくる奈良に対して、これで良いのかしら……と思っていたら、やっぱりロングカウンター1発で逆転されて……(溜息)。もちろん“たれば”ではありません。一方で、奈良の2得点は両方とも「自分たちの陣形が崩れても相手が整う前に仕掛ける。崩れたのは運動量でカバーする」「シュートは振り抜く」を徹底した結果にも見えました。これで下位チーム(当時)を相手に3連敗、昨季の4月4連敗が可愛く思えてきます。この長く暗いトンネルを抜け出すことができるのか。もちろん抜けて欲しいのですが、このまま思い切った手を打つことがなければ、ズルズルと今季も終わってしまいそうなイヤな感じが、今はしています。(ささたく)

●しかし、アウェイの二試合を連続でホームチームのサポに『最高の週末』をプレゼントしちゃうとは、ホント、『イイお客さん』だよなえ(苦笑)。知り合いのSNSの書き込みを見て「言われてみれば！」と気づいた『関西では未勝利』という事実。天皇杯もそうだし、なんなら、リーグ戦ではU-23(以下略)。ただ、対戦相手の現状見たら、今回こそは……と密かに思っていたんだけど、そういう、前節の教訓を活かすというか、学習しないところがダメなんだろうなあ。オマケに、またしても、現地に行けてないし。ホント、ダメなサポでごめんなさい。しかし、前半ATでのラスト・プレーで先制したのに、そこから勢いつけてフィニッシュできないのが辛いところ。ただ、松本戦以降、最前線やサイド、最終ラインを替えてみて、ユーヤはもちろん、トモヤもソコソコ出来ていて、それでも結果が付いてこないというなら、あとはもう、手を付けてないところに手を付けるしかないんじゃないかな？ サッカーだけけど。ボランチに方角コンビ(勝手に命名。コンビではないかも。)ではダメなのかね？ もっと、真ん中から、3列目からの攻撃、シュートも見たいんだが。まあ、昨季までと違って、2位までに入らなきゃ……ではないからね。まだまだ、チャンスはあるんじゃないかな？ とにかく、今季の赤字は御法度。監督を替えるコトはないでしょう。それならソレで構わないよ。クラブがなくなるワケじゃない。そんな中で迎える天皇杯一回戦。奈良戦のメンバーから替えてくるのか、こないのか。(ぐん、)

【天皇杯1回戦】岐阜1-0 沼津

●天皇杯1回戦、相手は現在J3で3位の沼津。昨年からの大躍進、現役時代を知るだけに、ゴン中山が名監督(?)だとは想像していませんでした、すいませんでした(笑)。しかし、沼津は6月にホーム戦、7月にアウェイ戦とリーグ戦の対戦も近接しているのに、どうして天皇杯1回戦の5月にも当たるかな……(苦笑)。

さてスタメンは、ほぼガチの岐阜に対して、少しメンバーを変えてきた沼津。この辺りは、やはりリーグ戦の順位と、天皇杯に対する“重み”の掛け方が両チームで異なるのが分かる。しかし、低迷している岐阜に対して好調の沼津、やはり試合は沼津が優勢に。特に前半の序盤は、かなり押し込まれていたように思う。だけど、この試合の岐阜の選手たちは、かなり運動量が増えていたように感じたり、前へ仕掛ける意識も強かったと思う。前半はスコアレスドローのまま折り返すと、後半19分、右サイドを縦1本のパスで抜け出した#5 石田峻真がクロス、これをゴール前で沼津の選手が弾いたところを#11 藤岡浩介がバイシクルで叩き込んで先制点！ やっぱり鋭いカウンター攻撃は効果的ですね(笑)。

その後には追加点を奪えずに時間が進むと、沼津が(いつものメンバーに)3枚替えして一気に攻勢。その後の約20分間

の長いことと言ったら(苦笑)。身体を張ったDF陣の守備、そしてGK #31 上田智輝のビッグセーブ連発。最後は5バックにして守り切った岐阜。“むしり取った”と言っても良いぐらいの気迫で、天皇杯とはいえ沼津から勝利を掴み取った。もちろんリーグ戦では3連敗中の身だけれど、この勝利が好調へのきっかけに繋がってくればと願わずにはいられない。そして、これで6/12(水)の2回戦は長良川でマリノスと。過密日程になってしまうのが不安材料だけれど、J1・アジア2位のチームを相手に、得るものが必ずあると信じたい。(ささたく)

●ついに始まった今年度の実業団サッカー。しかし、なんで13時のキックオフなんだ？ しかも、J3同士の試合はココだけだったんじゃないかな？ オマケに、ココから3か月連続で沼津戦がある。「また、オマエらか。」の対戦が始まるワケだ。もう少し、なんとかならないものか。ウチのメンツはガチメン。ターンオーバーはしないのか。スケジュール的にはする必要はないんだけどね。さらに、方角コンビはベンチにもいない。監督の指向性が窺えるね。

しかし、最初の20分の長かったコト。正直、いつ、失点してもおかしくなかった。沼津の攻撃も怖かったけど、ゴールキックを細かく繋いでいこうとする中で何回も危ない場面があってヒヤヒヤしたよ。途中からロングキックに戻して正解。ただ、トモキの好守には救われたね。特に、オフサイドっぽいヤツの副審スルーからの一対一。絶妙のポジショニングで相手のシュートコースを消したヤツは素晴らしかった。それ以外にもビッグ・セーブがあったし、この試合のMVPを選ぶなら彼かな、と。

ギリギリのところまで粘っていたら、暑さもあってか、沼津の攻撃がトーンダウン。ウチも何回かチャンスが作れるようになって迎えた後半。リョーマのクロスにプリンスのバイシクル！ 相手に当たって不規則なコースに来たのを瞬時に合わせるあたりは、ゴール・ゲッターの真骨頂だね！ お久しぶりの元エヒメッシに代わって出てきたカワマタケンゴが何回も危ない場面を作ってくれて終盤もヒヤヒヤし通しだったけど、この日はしっかりと抑え切ってくれました。およそ2か月ぶりの凱歌です。長えよ、ヲイ。待ちくたびれたよ(苦笑)。

コレで昨年に続き2回戦進出。残念ながら、アジア・チャンピオンにはなれなかったみたいだけど、公式戦では初対戦の横浜さんが次戦の相手。平日ナイト・ゲーム。時間休を取る気は満々です(笑)。(ぐん、)

●Jリーグチケットでは「バックスタンド左側」はたしか売り切れで、県協会の観戦案内には「バックスタンド右側では岐阜グッズを着用での観戦は出来ません」とは書いてなかったな、と「バック右側」のチケットを前売りで買ったのだけど、試合開始の少し前に入ろうとしたらゲート担当女史に露骨に嫌な顔をされ、FC岐阜のキャップはカバンに隠して、沼津サポさんから離れたところでの観戦に。おてんとさまの動きに合わせて動いて行く照明灯の影に入るように座る位置を変えて観戦したけど、前半終了時点で吐き気が。あ、これは熱中症の入口だ。身の危険が危ない(比喩)と判断して、ハーフタイムで離脱しました。だから、コースケの決勝ゴールは現地で見えていません。もっとも、ぼくが座っていた位置からでは東側ゴール前でのあのバイシクルは視認が難しかったでしょう。

同カテに勝ったことは素直に喜びたいけど、別の視点の暗鬱たる気持ちは減ることもない。ウチのボランチは、お祖母ちゃん(比喩)の遺言を守るように(比喩)相手のバイタルエリアに入っていないので、そこに降りてきて起点を作り、なおかつゴール前にも顔を出すコースケがいなくて攻撃が『成立しない』。「経営的事情により今季はこれでガマンしろ」ってのなら受け入れるけど、来季になってコースケが移籍とかしちゃうたらどうするんだろね。こんなに依存しちゃって。(吉田铸造)